

あきびんを、びんの原料などに再利用することで、環境負荷を大幅に軽減できます。

古くなったリターナブルびんや使い終わったびんは、カレット工場で細かく砕かれて、新しいガラスびんの原料やその他の用途に再利用されます。あきびんを砕いてつくるカレットを、新しいびんの原料として利用することにより、大切な天然資源を節約でき、さらに原料を溶かす時間が短縮され、省エネルギーにもなります。

いいびんをつくるために、良質なカレットが不可欠 そのためにも分別収集と選別作業が求められる

容器包装リサイクル法(びんのエコ・ストーリー参照)の施行で、ガラスびんのリサイクルも促進され、カレット利用量が増加して、その品質向上が重要となりました。現在、ガラスびんは原料に沢山のカレットを使用しますが、びんの品質は原料となるカレットの品質に大きく影響されます。カレットの中に、金属、プラスチック、耐熱ガラス、陶磁器などの異物が混入すると、びんの品質や歩留(品質に合格した製品の割合)に大きく影響して、ガラスびんの生産性が低下します。そのため、あきびんを収集する自治体には、省令で、異物が混入しない分別収集と精度の高い選別作業が求められています。



色選別された回収コンテナ



市民による分別



資源化センターでの色選別

高品質のカレットを製造するために、 カレット工場では徹底した異物除去を展開中

ガラスびんメーカーは、高品質なびんを製造するために、良質なカレットを必要としており、カレットを受け入れる際の品質基準を設定しています。カレット工場では、その基準に対応し、良質なカレットを製造するために、磁力選別機・風力選別機・金属探知器などの装置に加え、ラベル剥離装置・アルミ除去装置・陶磁器除去装置などの高性能選別機を導入して、異物の除去に取り組んでいます。また、カレット商*の中には、「カレットの品質は川上から」という考えのもと、地域住民や自治体の協力を求めるため、あきびんの排出方法や収集方法についての啓発活動を積極的に実施しているところもあります。

*カレット商…自治体などから回収したあきびんをカレットに加工する業者。
日本びんカレットリサイクル協会がある。



陶磁器、石、金属等を除去する装置



ラベルや汚れを除去する装置



陶磁器、耐熱ガラス等を除去する装置



陶磁器、耐熱ガラスを除去する装置

“びんtoびん”のリサイクルで、 何度でも、新しいびんができます。

カレットの中でも、無色と茶色は、新しくできるびんの原料としてたくさん使われます。ガラスびんは、リサイクルの際に素材の品質劣化が少ないのが特長で、くり返し使用しても、同じ品質のびんをつくるのが可能です。このように、“びんtoびん”でリサイクルすると、何度でも、新しいびんをつくることができます。

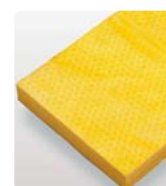


“その他の色のカレット”も、 いろいろな用途に利用されています。

無色と茶色以外のカレットは、住宅用断熱材、タイル、舗装道路やガラス工芸品などに、幅広く利用されています。



カラー舗装



住宅用断熱材



ガラス工芸品